

平成 28 年度 日本大学山形高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本および国際社会の平和と人類の福祉の向上に寄与し、我が国と郷土を愛するとともに、「自主創造」の気風を養い、伝統と文化を尊重する豊かな情操と信頼の心に満ちた人間として調和のとれた生徒を育成する。日本大学の付属校として、高大一貫教育に努め、充実した全人教育を行う学校にする。

〔本校の特長及び課題〕

「自ら学ぶ心」を育成しつつ、個々人の進路希望を実現させるべくコース別学習指導の体制の下、学力向上を目指している。

適切な生徒指導の根幹をなす基本的な生活習慣の確立、能動的な学習習慣の確立に努めている。また、地方の私立高校として特別教育活動の振興に努め、学園全体として文武両道を校是とし、感動と一体感を涵養している。

課題は、さらなる特徴の充実を図るとともに、少子化に伴う生徒募集の在り方、校舎の耐震化と財政基盤の適正化にある。

平成 28 年度の取組結果

〔概況〕

平成 28 年度の各校務分掌取組目標に対して、取組結果・進捗状況は昨年同様おおむね良好な成果が得られたものとする。特に、毎学期ごとに各教科が研究授業を行い、アクティブ・ラーニングなどの新しい課題を実践し授業レベルの向上を図っている。また、教員全員が担当する中学校に何度も足を運び生徒募集に努めている。しかし、達成がやや不十分であった項目もあり、今後とも全教職員が協力して継続的に改善していきたい。

評価項目	取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育活動	基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を目指す。	B
	教師の授業力向上	「駿台教育セミナー」にまだ参加していない、または参加回数が少ない若い教員への参加を促しつつ、他社のセミナーへも参加できる体制を整えた。また、従来の教科指導とアクティブ・ラーニングに向けた研修への参加が多くなり、新指導システムの開発に弾みとなっている。今後いろいろな分野への参加を促し、さらなる教育改革を進めていきたい。	A
	生徒による授業評価結果に基づく授業改善	授業進捗については、おおむね良好であった。今年度は今まで以上に出張等の関係による振替授業をすることによって課題学習が少なくなった。しかし、少ないといえる現状にまだない。	B
学校生活への配慮	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・担任によるクラスでの指導と全体での指導（全校集会、学年別一斉指導）を実施している。 ・各学期の始業式後に、学年ごとに頭髪・服装検査を実施した（2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施）。 ・外部講師による生活指導講話を年4回（「自転車交通安全教室」「薬物乱用防止・SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」）実施した。 ・登校時間帯（4月～11月末）に教員・学級委員・週番委員が一体となった挨拶運動や駐輪指導を実施した。 	B
	交通安全非行の防止	・道路交通法の改正に伴う自転車の乗り方に関して、4月に生活指導講話「自転車交通安全教室」を実施（1学年）した。また、各	B

		<p>クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の通学路巡回指導を実施している。 ・普段からの指導とともに、警察署による生活指導講話を実施して事件、事故、トラブルの防止につなげた。 	
	いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の「いじめ防止対策基本方針」に基づき、組織としての対応を行っている。 ・生徒と担任との二者面談等を行い、生徒理解に努めている。 ・「いじめ発見調査アンケート」を実施し、防止や対応に努めている。 ・教員が各種研修会に参加し、指導力の向上に努めている。 ・生徒会によるいじめ防止のためのスローガンを作成し、いじめ防止に関する意識づけを高めている。 ・ネット被害防止スクールガード事業としてのネットパトロールを行い、いじめ防止やトラブル防止の指導に取り組んでいる。 	B
課外活動	課外活動の充実	基礎学力テストが9月実施となって2年目となったが、日程等を工夫することで活動の充実を図った。	B
	ボランティア活動の充実	ボランティア活動の充実を図るべく、引き続き働きかけを行ったが、新しい活動の開拓には至らなかった。	B
	3年次体育祭の代替行事の確立	今年度の体育祭が9月開催だったため、1・2年生は実施できたが、3年生は基礎学力到達度テスト直前により、代わりに入試激励会を実施した。来年度は7月に開催することで全学年一斉実施に戻る予定である。	B
	部活動の活性化と顧問の負担軽減	各部とも活躍し、全体として生徒の入部率も上昇した。顧問の負担軽減については改善されていない。	B
進路指導	きめ細かい進路指導の実践	担任と進路指導部が連携を密にし、生徒の実態に即した進路指導を行った。クラス担任が詳しいことまで分からない分野については、進路指導部でバックアップするような体制が確立している。日本大学への合格者数が増えている。	A
	キャリア教育の充実	キャリア教育の研修会に教員が参加し、指導力の向上を図った。生徒にも体験学習への参加を積極的に働きかけた。医師体験セミナーの参加者3名、看護体験の参加者17名、理学療法士体験の参加者11名・作業療法士体験の参加者6名、医進セミナーの参加者12名、医進塾(医学に関する課題研究ワークショップ)参加者2名、子育てサポートふれあい体験参加者1名となっており、各種体験への参加者数が増加した。職場見学は3月実施の予定である。	B
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ol style="list-style-type: none"> ①夏期休暇中の全員参加の講習(1～2年、ただし3年は進学希望者全員) ②年末年始休暇中の全員参加の講習(1・2年) ③春期休暇中の全員参加の講習(2・3年) ④医学部附属看護専門学校説明会(生徒対象:看護学校教員が説明) ⑤理工学部説明会(生徒対象:理工学部教員が説明) ⑥芸術学部説明会(生徒対象:芸術学部教員が説明) ⑦工学部オープンキャンパス無料バスツアー(生徒・保護者対象)の引率 ⑧日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導 	A

		<p>⑨ 1年次進路説明会（保護者対象）にて日本大学について説明（本校教員が説明）</p> <p>⑩ 2年次進路説明会（生徒・保護者対象）にて日本大学向けの分科会を開催（本校教員が説明）</p> <p>⑪ 3年次日本大学付属推薦説明会（生徒対象：本校教員が説明）</p> <p>⑫ 3年次日本大学付属推薦説明会（保護者対象：本校教員が説明）</p> <p>⑬ 生産工学部高大連携教育</p> <p>昨年度の新付属推薦の結果を踏まえ、日本大学の学部学科ごとに基礎学力選抜方式における目標点をまとめたプリントを作成し、教員・生徒・保護者に提示した。新付属推薦2年目ということで、昨年度のデータをもとに進路指導ができた。その結果、日本大学志望者の割合が増加し、日本大学への進学も増加した。</p> <p>日本大学一般入試N方式1期の、合格者数が大幅に増加した。</p>	
保健衛生	日常の健康観察と情報共有のための連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室に来室した生徒の観察や異常の有無の確認、何らかの問題が判明した場合の状況把握、関係者間の情報共有、ケース会議の実施は、積極的に行った。 ・12月に学校感染症が発生した際は、学級閉鎖や部活動停止の措置を適時実施できた。 	B
	学習環境の日常点検実施	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会の活動とタイアップして、校舎内の日常点検は定期的に行えた。 ・学校と学校薬剤師が行う定例の空気検査を実施できた。 	B
図書	知的興味へ誘う環境作り	図書館前通路をその時その時で様々な工夫することができた。館外に掲示するニュースを6号館昇降口に移し効果があった。	B
	広報活動の充実	全体的に前進した。生徒には、「ベストリーダー賞」の受賞者を増やし、それに向けての広報活動も工夫し、反響も良かった。	B
広報	募集要項の改定を行う	入試について問い合わせ事項の多い項目や記載の方法を分かりやすく表記し、一部提出書類の電子データ化により、中学校の書類作成に関わる負担の軽減を図った。	A
	入試基準の浸透を図る	7月に行われる中学校教員対象説明会において具体的に説明し、また9月の中学校への一斉訪問時に学校担当者が説明を行った。その結果、今まで連絡のなかった地区からの事前相談の申し出があった。	B
管理運営	出張旅費内規の見直し	学校対抗競技（東北大会・全国大会等）生徒及び教職員旅費内規等について見直しを図り、旅費等の支出の抑制を図る。	A
	学生生徒等納付金の収入確保	平成28年度入学生より授業料を年額36万円から39万円に3万円値上げし、従来徴収していなかった実験実習料を年額6千円と設定した。	A

【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標の取組結果

評価項目	具体的取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育活動	基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を目指した。	B
	教師の授業力向上	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。また、外部の研修会に積極的に参加	A

		し、教師相互研修の一助にした。	
管理運営	財政基盤の確立	ゼロベース予算、冗費の節減、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減対策につなげることができた。今後も財政状況が改善するよう継続して取り組む。	A

【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

平成29年度の取組目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等へのデータに基づいた対応をさらに充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を目指す。	通年
	教師の授業力向上	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。また、外部の研修会に積極的に参加し、教師相互研修の一助にする。	通年
	生徒による授業評価結果に基づく授業改善	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業等の相互点検を図りながら、教育力の向上を図る。特に授業進度と授業始業については継続事項。	通年
学校生活への配慮	基本的な生活習慣の確立	・担任をはじめ、教員全体による日頃からの継続的な指導と対応の徹底	通年
		・定期的な全体指導の実施 (学年集会、生活指導講話、頭髪・服装検査などの実施)	
		・担任会・学年会との連携の強化	
	交通安全指導 問題行動の防止	交通安全教室(学年)の開催	4月
		各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図る。	通年
		登下校時の通学路巡回指導の実施	通年
		トラブルや問題行動防止のための生活指導講話の開催	1・2学期
	いじめ防止のための取組	生徒との二者面談等の実施。	通年(特に年度の早い時期から)
		「いじめ発見調査アンケート」の実施と適切な対応。	6月・10月
		生徒会が中心となった、いじめ防止スローガンやポスターの作成と掲示	1学期～
各種研修会への教職員の積極的参加		通年	

		ネット被害防止スクールガード事業を通したネットパトロールの実施と対応	通年
課外活動	課外活動の充実	基礎学力到達度テストの実施に伴い学力向上が急務であるが、生徒会活動等、日々の生活を活気あるものにする。	通年
	ボランティア活動の充実	校外のボランティア活動への参加を積極的に呼びかけるとともに、校内でできるボランティア活動を確立させる。	通年
	南東北総体への協力	次年度の南東北総体に向け、本校の活動とバランスを取りながら協力する。	4～8月
	部活動の活性化と顧問の負担軽減	部活動の活性化に努めつつ、部顧問が過負担にならない方法を思案する。	通年
進路指導	きめ細かい進路指導の実践	新付属推薦入試の最新情報を速やかに生徒や保護者に伝え、日本大学進学希望者の進路目標達成を援助する。進路指導部と担任が連携を密にして生徒の実態に即したきめ細かい進路指導を行う。スタディサポート（生活・学習指導の支援システム）による生徒の現状分析をもとに、面談の計画を立てる。教員向けのスタディサポート分析活用会を実施し、家庭学習の充実に向けた指導のポイントなどを担任が研修を積み、実践していく。	通年
	日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ①夏期休暇中の全員参加の講習（1～2年、ただし3年は進学希望者全員） ②年末年始休暇中の全員参加の講習（1・2年） ③春期休暇中の全員参加の講習（2・3年） ④医学部附属看護専門学校説明会（生徒対象：看護学校教員が説明） ⑤理工学部説明会（生徒対象：理工学部教員が説明） ⑥芸術学部説明会（生徒対象：芸術学部教員が説明） ⑦工学部オープンキャンパス無料バスツアー（生徒・保護者対象）の引率 	通年

		<p>⑧ 日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導</p> <p>⑨ 1年次進路説明会（保護者対象）にて日本大学について説明（本校教員が説明）</p> <p>⑩ 2年次進路説明会（生徒・保護者対象）にて日本大学向けの分科会を開催（本校教員が説明）</p> <p>⑪ 3年次日本大学付属推薦説明会（生徒対象：本校教員が説明）</p> <p>⑫ 3年次日本大学付属推薦説明会（保護者対象：本校教員が説明）</p> <p>⑬ 生産工学部高大連携教育</p>	
保健衛生	情報提供・情報共有の迅速化と早期対応の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとの健康課題（感染症等）やその現状に関する情報を教職員にタイムリーに提供する。 ・ 生徒一人ひとりの様子を観察し、問題を把握した場合、一人で抱え込まず、ケースごとの関係者がチームで早期対応に当たる。 	通年
	校内環境の整備・点検・維持	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習環境の日常点検の観察ポイントを視覚化し、全教職員に周知する。 ・ 清掃活動に対する指導を強化する。まずは清掃用具の点検を最優先とする。 	通年
図書	広報活動の充実	広報活動につながる内部のデータ整備を進める。	通年
	知的興味へ誘う環境作り	関心をひき、その次の行動に導くような環境づくりを目指す。	通年
広報	入試制度の変更により志願者を増やす	受験生、保護者にとって魅力的な入試制度を取り入れ、中学校教員対象説明会、学校説明会、中学校・塾訪問を通して周知していく。	通年
	ホームページの改定	トップページやバナーの並びを変えて、より見やすく情報を得やすいホームページにする。	7月上旬
管理運営	経常費補助金収入の改善及び人件費の適正化	1学級の生徒数を40人以下にし、経常費補助金の減額要因を最小限に止め、補助金収入の改善を図る。また人件費の適正化を図るため、生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直した適正な教員数を配置する。	通年

	経常費補助金の収入確保並びに併願者入学申込金の見直し	平成 29 年度入学試験より併願者の入学申込金を 10 万円から 8 万円と見直し、補助金算定上の控除率を下げるにより補助金収入の増収を図る。また受験環境の整備を併せて行い受験者数増を図る。	通年
--	----------------------------	---	----

中長期的目標及び方策

評価項目	具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育活動	基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り、生徒の学力向上をデータに基づいて目指す。	平成 29 年度計画に向けた段階から連携を図る。
	教師の授業力向上	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。また、外部の研修会に積極的に参加し、さらなる教師相互研修の一助とする。	研究授業については継続事項。
管理運営	財政基盤の確立	ゼロベース予算、冗費の節減、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減対策につなぎ、財政状況が改善するよう継続して取り組む。	財政状況が改善するよう継続して取り組む。